



世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム

2019年度予算額：1,396百万円
(前年度予算額：1,432百万円)
※運営費交付金中の推計額

参考資料3-2
科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会
第10期地域科学技術イノベーション推進委員会
(第2回)
R2.3.16

背景・課題

- 世界では既存の先端研究基盤の集積を活かし、国内外の産学官の頭脳集積・頭脳流動を実現することでイノベーションの推進を図ることが主流となっている。
- 例えば、フランスのグルノーブル地域では、域内の施設・資源を連携させ、複数の大学及び研究機関、企業等が集積するGIANT (Grenoble Innovation for Advanced New Technologies)を形成し、街づくりを推進している。
- 我が国においても、世界におけるイノベーションのフラッグシップを形成することにより、地方創生を実現していくことが必要である。

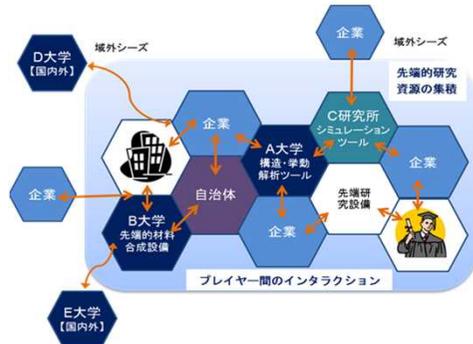
事業概要

【事業の目的・目標】

世界に誇るイノベーション創出を目指し、地域に結集する産・学・官・金のプレイヤーが、国内外の異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤を形成し、地方創生にも資する。

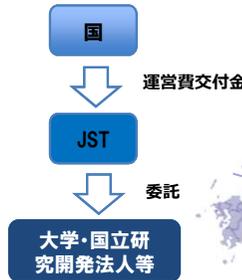
【事業概要・イメージ】

- 世界的にも優れた研究インフラ、組織、その他資源を集積させた一定範囲の物理的空間であるコンプレックスの中でプレイヤー間のインタラクションを活性化させ、コンプレックス全体の成長を促進する。
- 各拠点が目標、ミッションを達成するための必要な機能を設けるとともに、5つの事業ツールを駆使することでプレイヤー間のインタラクション活性化させる。
- 上記に係るシステムの構築・運用により地域の優位性を最大限に活かした新事業や新産業、雇用の創出を実現する。



【事業スキーム】

- ✓ 支援対象: 右図



①健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス

中核機関: 理化学研究所
自治体: 兵庫県、神戸市

②世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創る

Wellbeing Research Campus

中核機関: 慶應義塾大学
自治体: 川崎市、神奈川県、横浜市、東京都大田区

③i-Brain x ICT「超快適」スマート社会の創出グローバルリサーチコンプレックス

中核機関: 関西文化学術研究都市推進機構
自治体: 京都府

- ✓ 事業規模: 4.1億円程度/機関・年(2018年度平均)
※5年間で同規模の地域負担
- ✓ 事業期間: 2015年度~2019年度(原則として5年間)

【主な実績】

<神戸>

● 健康改善を促す「いきいき羅針盤アプリ」をアップストアで公開(2018年4月25日)、阪急阪神HDがポイントサービスなどを活用し健康寿命の延びる沿線事業に展開



● 疲労測定デバイスなどを活用した新しい健康計測の実施

<殿町>



● 慶應義塾大学殿町タウンキャンパスの研究・教育活動が本格活動、人材育成の推進(2017年10月に新規棟が竣工し、ラボ、事務機能が集約)

<けいはんな>

● 快適性(五感情報等)を統合的に解析可能な実証実験環境を構築



● ニューヨーク市最大級のアクセラレータERAが連携、米国投資家からの投資を誘引するためのメンタリング等を行うプログラムを実施